

で乳牛



実証試験に使った甘草ペレット（北海道江別市で）

にとって肝臓の強化は、健康を維持し分娩（ぶんべん）後に多い病気を防ぐために重要なテーマ。生乳増産や長命連産の鍵になる。福岡県の企業が飼料用の甘草を商品化し、販売を本格化させる。

泌乳量増え負担

「長年の改良で泌乳量が増え、弱りやすい。大量のエネルギーが必要になる分娩時に負担に拍車がかかる、疾病につながりやすい。」

数値軒並み

肝臓に代わり、肝臓への負担は大きい。小岩教授はこう強調する。

生乳生産量の増加に伴い、牛は多くの餌を必要とする。足りない場合は体脂肪をエネルギー源にする。その機能を担うのが肝臓だが、脂肪分の代謝や蓄積によって負担が

の「カンゾウ」で「カンゾウ」を——。酪農学園大学（北海道江別市）の小岩政照教授らは、甘草（かんそう）を与えると乳牛の

分娩後の病気防ぐ

福岡の企業 本格販売へ

北海道の大学 実証試験



甘草ペレットを含む飼料を食べる乳牛（酪農学園大学提供）

も交えて2014年から試験した。

小岩教授は「現在の牛は、異常が目に見えた頃

1キログラムで販売 甘草が現れたことを受け、ファブリック大西は甘草抽出物100%の粉末を製品化した。1日当たり20キログラムを与えること

今後、全国の酪農家に本格的に販売していく考えだ。大西善郎社長は「健康な牛につながる飼料を安価で提供できれば、酪農経営に貢献できる」と強調。これまでの価格から下げ、1キログラム6000円（税別）で販売する。同社は肉用牛への小岩教授の種雄牛に甘草飼料を与えているジェネティクス北海道道央種雄牛センターは、高齡の種雄牛への給与ではないと触れている」と分析している。

施設園芸の新技术実証

ヤンマー 岡山の開発拠点公開



ヤンマーが披露したイチゴの栽培施設。移動栽培装置、ヒートポンプ、細霧冷房を組み合わせて栽培環境の最適化を図る（25日、岡山県倉敷市で）

獲台車をはかせ、作業者の動きの最適化など、労務管理についても研究する。ヒートポンプや、果実選別機の実証試験施設としての側面もある。

研究棟は、土壌や水耕養液中の栄養分を分析する装置や、発光ダイオード（LED）光源を用いた育苗施設を備える。

でかん水と薬剤散布ができ、移動式の栽培装置と、ヒートポンプ、細霧冷房を組み合わせて、「すずあかね」は、大玉、中玉、ミニトマトを高設栽培。移動式の収

同社は「これまで培ってきた農機の開発ノウハウに加えて、植物を研究することで、最適な栽培環境を生産者に提案したい」と話す。

月までに白桃と黄桃の2品種を登録。「白鳳」を交配した「KU-PP1」が白肉品種で、「日川白鳳」を交配した「KU-PP2」が黄肉の品種。どちらも果実の大きさ、食味とも日本の品種に遜色ない。

白肉の「KU-PP1」は、実際にハウス加温栽培で生育を確認した。低温に遭わせる時間を通常品種の半分の50



極早生の桃、白肉の「KU-PP1」④と黄肉の「KU-PP2」⑤（香川大学農学部提供）

温暖化でも生育安定

極早生桃、2品種育成

香川大

香川大学農学部は、休眠から早く覚める品種を交配に使い、極早生の桃2品種を育成した。ハウス加温栽培で、同じ条件の通常品種に比べ、約3週間早く収穫できる。ハウスで無加温にしても、

付加価値が見込める他、暖冬でも生育が安定するため、温暖化に有効な品種としても活用してほしいとしている。

桃は休眠中、一定時間以上の冬の低温に遭わないと萌芽（ほうが）が始まらない。低温にさらされる時間は品種によって必

要な時間が異なり、日本の桃は約1000時間。一方、亜熱帯原産の桃は200時間以下で、日本の桃より早く萌芽し収穫できる。同大は両方を交配し、日本の桃の品質に近く、収穫の早い品種の育成に取り組んできた。育成した中から今年3

ぐんぐん成
ドイツ北部のデメンに
場で育つシチメンチョウ

